

早生糯水稻「めんこもち」の期待生育量と栽培のポイント

【1 収量構成要素など】

(1) 収量確保に向けた期待生育量の目安は下記のとおりです。

収量水準	m ² 穂数	一穂粒数	m ² 粒数	玄米千粒重	登熟歩合	稈長
<1.9mm 篩>(kg/10a)	(本/m ²)	(粒)	(千粒/m ²)	<1.9mm 篩> (g)	(%)	(cm)
570~640	350~450	75~90	31~36	21.0~22.5	80 以上	72~80

【2 栽培のポイント】

(1) 施肥について

<基肥> 窒素成分で **6kg/10a 程度** とし、早期の茎数確保に努めましょう。

<追肥> **幼穂形成期**を重点に、窒素成分で **2kg/10a 以内**です。

幼穂形成期における簡易栄養診断値（下表）により、好適範囲を下回る場合は積極的に追肥しましょう。なお、葉色が「カグヤモチ」より淡い（図 1）ので、追肥量の判断にあたって注意しましょう。

項目	葉色値 (SPAD, n-2 葉)	草丈(cm) × 茎数(本/m ²) × 葉色値
診断時期 幼穂形成期	37~42	好適範囲 : 1.35~1.6 × 10 ⁶

(2) 刈取り適期について

刈取り適期は、出穂後の日平均積算温度（登熟積算温度）1,000~1,100℃が目安です。

出穂直後の「めんこもち」のふ先色は**濃い赤色**（図 2）で、成熟期までに徐々に褐色になります。ほ場を遠目から見ると黄化が進んでいるように見えるので、刈取りにあたっては黄化割合や登熟積算温度に加えて**必ずテスト籾摺り**しましょう。

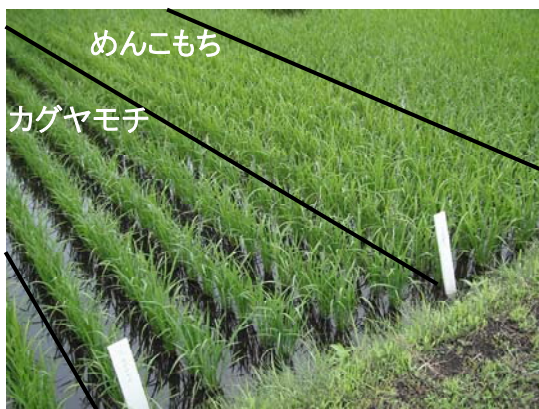


図 1 カグヤモチとの葉色の違い
H28/6/24 撮影、県北農業研究所（軽米）

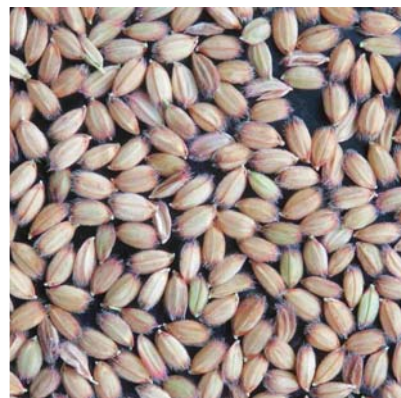


図 2 籾殻のふ先色（出穂 38 日後）
H30/9/5 撮影、登熟積算温度 826℃